

学級通信を使った学級経営～児童アンケートをもとに～

日出学園小学校教諭

大熊 一也

1 学級通信について

・発行回数

53号(2019年9月2日)～121号(2020年1月24日)。合計で69回、発行した。

・内容カテゴリー…(赤坂.2016を参考に筆者が作成した)

番号	記事の分類	出現回数(前回発表)	出現回数(今回発表)
①	実現して欲しい姿・目標・教員の思い・願いの記述	24	10
②	学級の実態・出来事に関する記述	14	6
③	児童個人への称賛、承認の記述(誕生日のお祝いも含む)	20	13
④	児童個人の活動、行動、貢献への価値付けの記述	25	34
⑤	学級全体への称賛、承認への記述	1	12
⑥	学級全体の活動・行動・貢献への価値付けの記述	1	9
⑦	注意・指導に関する記述	1	1
⑧	授業中における、良い意見の全体共有	0	5

※本研究から ⑧ の項目について考察を行った。

・写真の掲載

90枚の写真を掲載した。

・『授業中における、良い意見の全体共有』の項目について

本研究から、『授業中における、良い意見の全体共有』の項目を追加した。前日の授業中の良い意見やお手本となるノートの内容を紹介した。主な授業としては、『自分が士農工商の身分になるとしたら、どの身分が良いか』、『祝日法の授業(新しい祝日を作ってみよう)』である。社会科の授業での発表紹介が多いことが特徴である。

2 児童アンケート

・児童アンケートの使用

学級通信におけるアンケートを児童に実施した。

- | |
|--|
| ①学級通信を読んでいますか?(毎日読んでいる 時々読んでいる 読んでいない) |
| ②学級通信で学んだことは何ですか? (自由記述) |
| ③学級通信を読んでうれしかったことは何ですか? (自由記述) |
| ④今後学級通信に書いて欲しい内容があったら教えてください。 (自由記述) |
| ⑤学級通信の感想を自由に書いてください。 (自由記述) |
| ⑥今後も学級通信はあった方が良いですか?(あった方が良い どちらでも良い ない方が良い) |

・アンケート結果

①学級通信を読んでいますか？

毎日読んでいる	時々読んでいる	読んでいない
50%	50%	0%

②学級通信で学んだことは何ですか？

- ・学級の成長 ・一人一人の成長 ・学級の長所と短所 ・先生やクラスの誰かが学級に対して思っていること
- ・わからない ・どうすれば良いクラスができるかということ ・自分の心の成長 ・クラスの日常
- ・友達の意見や感想 ・学級内の団結力や楽しさ ・みんなが大切な仲間であるということ
- ・クラス会議の内容 ・努力の大切さ

③学級通信を読んでうれしかったことは何ですか？

- ・自分がみんなの手本になったとき ・クラスメイトの誰かの成長が書かれていたこと
- ・自分の誕生日 ・自分の良い所を先生が書いてくれたとき ・自分が評価されていたこと
- ・友達の誕生日 ・自分の知らない、自分の良いところが書いてあったとき
- ・ほめられたこと ・努力したことが認められたとき

④今後学級通信に書いて欲しい内容があったら教えてください。

- ・特になし ・当たり前行動でも、その行動がクラス全体の学びにあると分かったとき
- ・卒業遠足のことなど ・今のままで十分なので、150号を目指して欲しい ・卒活に向けての活動
- ・先生の日常 ・今日の MVP ・現在のクラスの得点を書いて欲しい ・勉強のこと

⑤学級通信の感想を自由に書いてください。

- ・自分の成長が分かったので良かったです ・毎日書いていてすごいなと思いました
- ・だいたいみんなの良いところが書かれていて、朝読むと良い気持ちになります。たまに厳しいことが書かれていて嫌だなど思うことがありますが、先生が自分の成長を考えて書いていることなので、身にしみます。
- ・名言が書いてあっておもしろい ・たまに見返してみるとおもしろい
- ・大切な言葉も太字で書いてあるので、意識が高まる ・毎回読むのは面倒だが、勉強になると思う
- ・黒板にあると自然に見てしまう ・文字が読みやすい ・これからも続けてください！
- ・学級通信に良いことを書くと良い気分になるので、今後も続けて欲しいです
- ・いつも何が書いてあるのか楽しみにしています。これからも読みたいです。
- ・クラスの良いところ、悪いところが分かって助かります。毎日読むのが楽しみです。
- ・自由に見ることができるので、時間に関係なく、自分に合ったペースで見れる
- ・他のクラスでも広めたほうが良いと思います

⑥今後も学級通信はあった方が良いですか？

あった方が良い	どちらでも良い	ない方が良い
88%	12%	0%

3 考察

① 新しい項目『授業中における、良い意見の全体共有』について

実際にその項目について書いた回数は3回である。前日の授業後にノートを回収して、『共有することで、学級全体に学びになるもの』、『普段発言する回数は少ない児童であるが、ノートにはしっかりかけているもの』を基準として選んだ。その回の学級通信は全体に配布を行い、社会のノートに貼るように指導を行った。次の授業では、内容の紹介と共に、他の児童に感想を発表させ、意見の共有と全体での賞賛を行った。

② 児童アンケートの実施について

・他者への関心の高さと学級に与える影響

アンケート結果、『②学級通信で学んだことは何ですか?』、『③学級通信を読んでうれしかったことは何ですか?』より、多くの児童が自分以外の他者に注目していることが分かる。この場合の他者とは、友人や学級全体を指す。さらに、注目しているだけではなく、その良い行動に気が付き、今後の自分の行動に参考にしている傾向があることも読み取れた。

高学年の学級における問題行動は、多くが表面化しないために担任が気が付かないうちに大きな問題になることが多い。しかし、学級の構成員である多くの児童が、自分の学級や他の児童への高い関心を持つことで、学級内における問題行動が未然に防ぐことができたり、仮に起きたとしても小さな問題のうちで解決できたりすることが分かった。

・承認欲求について

上記の内容に付随して、他者への関心だけでなく、多くの児童が『自分もほめられたい』という気持ちを持っていることが分かった。高学年になると、全体での賞賛を嫌がる児童も多い。そのため、この賞賛するという行動は注意が必要だろう。そのため筆者は、表を用いて全ての児童が均等に学級通信に名前が載るようにするといった配慮を行った。

③ 書き方の注意点

学級通信を初めて1年間継続的に書いた。留意した点について書いていきたい。

・描写を多くする

『描写』について、『客観的に表現すること』と定義した。読む人は筆者の意図が最初から理解できるものではない。学級通信の記述から内容を理解しなければならない。そのために、文章を書き、写真を載せるのである。『初めて読んだ人でも、児童が体験した内容が分かる』ということが一番に意識した。

そして、『客観的に表現すること』についても注意が必要であると思う。同じ出来事を体験したとしても、児童と教員では感じるポイントが異なる。そして、児童の間でも様々な観点に注目している場合がある。そのことをふまえて、『どこに着目して描写を描くか』ということも意識した。筆者は、この学級の担任であるので、学級の方向性や学級への思いを学級通信で表現した。学級で起こる一つの出来事からもその担任の意図は影響している。学級である出来事が起きた。当然、同じ空間にいた児童がそれを知っている。しかし、その出来事から何を読み取れるのか、どのような考えを担任が持っているかは分からない。それを効果的に表現する手段が学級通信であると思う。